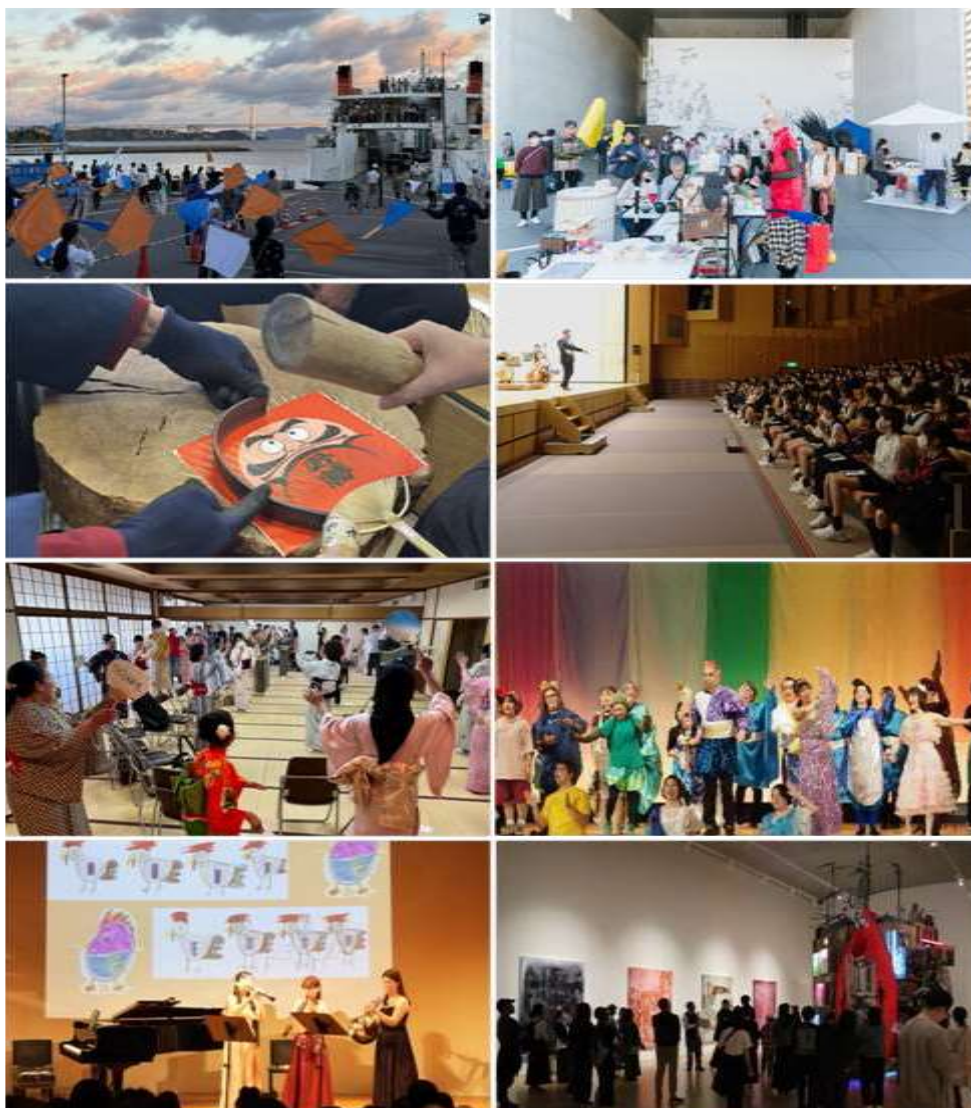


第二次丸亀市文化芸術基本計画



表紙の画像

瀬戸内国際芸術祭	ゲートプラザ文化発信 プロジェクト
うちの体験教室	芸術鑑賞教室
日本文化紹介 丸亀踊り体験	多様な参加者による 市民劇公演
みんなで楽しむ コンサート	企画展(MIMOCA)

序 文

- 丸亀市の歩みと歴史・文化・芸術 -

丸亀市は、香川県のほぼ中央に位置する人口約 11 万人の都市です。

北には風光明媚な瀬戸内海と点在する島々、南には讃岐山脈の山々が連なり、中央部には讃岐平野の田園風景が広がっています。そして、そこには標高 422m の讃岐富士がそびえ、土器川が流れ、多数のため池が点在する讃岐特有の景観が広がっています。

「丸亀」のおこりは、慶長年間に讃岐国の領主である生駒氏が丸亀城を築城したことに始まります。寛永 20 年（1643 年）に山崎氏が丸亀城を再建し、万治元年（1658 年）から幕末まで京極氏が城主となり丸亀城の整備を引継ぎ、城下町の整備を行います。江戸時代後期には、金毘羅参詣の入港として栄え、「うちわ」の生産が活性化し、現在では伝統産業として発展しています。中津万象園には御茶所と庭園が残り京極家の文化を伝えています。

明治維新後には、歩兵第 12 連隊が置かれ、軍都として発展し、終戦後は香川県第 2 の都市として発展してきました。

平成の大合併により、平成 17 年 3 月 22 日に、丸亀市、綾歌町、飯山町が合併し、新「丸亀市」が新たに発足し、中・西讃地区では初めて人口が 10 万人を超えて、現在に至っています。

現在、丸亀城跡は、内堀以内が国指定史跡となっており、高さ日本一の石垣を有する「石垣の名城」と名高く、本市のシンボルとして多くの人々が訪れる観光地となり、市民が憩う都市公園となっています。石垣の頂に行くにつれ垂直になるよう独特の反りを持たせる「扇の勾配」は見るものを魅了し、その石垣の上に建つ天守は現存天守 12 城の一つです。残念ながら平成 30 年 7 月の豪雨により、石垣の一部が崩落し、現在は全力を挙げて復旧作業に取り組んでいます。

また、近年、香川県は「アート県」として世界から注目されています。本市には JR 丸亀駅前に谷口吉生氏設計の「丸亀市猪熊弦一郎現代美術館」があり、歴史と伝統のある丸亀城とは対照的に、現代アートにより全国から人々が集う環境が整っています。

さらに、本島は、古くから塩飽諸島の中でも海上交通の重要な地点となっており、塩飽水軍の中心地となっていました。現在では、3 年に一度、日本を代表する芸術祭の一つとも言える「瀬戸内国際芸術祭」の会場になっており、島の自然と現代アートを求め、国内外から多くの方が訪れる場所となっています。

これらの丸亀市特有の文化芸術は、これまで市民が主体的に文化芸術を受容し、創造、発展させ発信してきたことで、現在まで脈々と継承されており、市民生活の営み、歴史・文化・自然景観などにおいて「豊かさ」や「ゆとり」「美しさ」の感じられる、平和で豊かなまちづくりの礎となっています。

目 次

第1章 策定の概要	1
第1節 策定の趣旨	1
第2節 本計画の位置付け	3
第3節 計画期間	5
第4節 策定体制	6
第5節 対象となる文化の範囲	7
第2章 策定の背景	9
第1節 文化芸術を取り巻く社会の状況	9
第2節 国の文化政策	10
第3節 県の文化政策	11
第4節 丸亀市の文化芸術の現状と課題	12
第3章 本計画の構成	25
第1節 基本理念	25
第2節 基本方針	27
第3節 施策の体系	29
第4章 施策展開	32
第1節 〈基本方針1〉文化芸術に触れる機会の充実	33
第2節 〈基本方針2〉文化芸術の多様な価値の創造	34
第3節 〈基本方針3〉文化芸術による多様なつながりの創出	35
第4節 〈基本方針4〉歴史・文化の継承と発展	36
第5章 本計画の推進体制	39
第6章 本計画の進行管理	41
資 料	45
丸亀市文化芸術基本条例	45
丸亀市文化芸術推進審議会委員名簿	49
第一次計画の指標の進捗状況・評価	51
丸亀市文化芸術基本計画に関するアンケート調査報告書	53
コラム① 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館	23
コラム② 丸亀市民会館	31
コラム③ 丸亀市綾歌総合文化会館	37